

Book information

大学と連携した地域再生戦略 —地域が大学を育て、大学が地域を育てる—

編者：大宮登・磐田正 ぎょうせい3,500円(税込)
ISBN 978-4-324-08251-5

大学と地域の連携によるまちづくり

群馬県高崎市にある公立大学「高崎経済大学」の地域貢献に関するおよそ10年の取り組みをふり振り返り、大学の地域貢献とは何かを考える一冊。

特に、地方大学が自治体や地域から求められている地域貢献のあり方と、大学が考えている地域貢献のあり方のギャップについてのアンケート調査の分析結果については、一見の価値がある。

今後の「大学と地域の連携のあり方」についての新しい可能性を示しており、大学を核とした地域再生に係る関係者には必携の一冊といえるだろう。



—今年度のスタッフです—

平成20年度、えひめ地域政策研究センターまちづくり活動部門は左記のスタッフで活動します。

.....

今回はスタッフの変更がなく、昨年8月から土井田事務員が新たにスタッフとして加わっています。今年度もよろしく願いいたします。



後列 左から	研究員 谷本英樹 (宇和島市)	研究員 松本 宏 (伊予市)	研究員 坂本耕紀 (久万高原町)	主任研究員 小方 悟	研究員 清水和繁 (全農愛媛県本部)
前列 左から	事務員 土井田真里	専務・所長 栗田史朗	常務・総括部長 丹羽由一	事務員 濱田悦子	

【編集後記】

「若い人がいないところにとってはね、若い人が来てくれる。ただそれだけで地域の人はうれいものなんよ」
今回の特集の原点はこの言葉に集約されているといっても過言ではない。
今回は、「インターシップ」に事例をしぼったが、このほかにもさまざまな若者の派遣方法がある。
たとえば、山口県には「学生耕作隊」と呼ばれるNPO法人があるが、これは都市部の学生を農村へ派遣して農作業をしてもらい、農家は学生にわずかな賃金を農作物を支払うというもので、学生発のコミュニケーションビジネスでもある。
このように、学生のもつ力は無限の可能性を秘めている。
そういった若い人たちの力をどうやってうまく利用するかという視点もまた、これからの地域づくりに求められているのかもしれないのだが、みなさんはいかが思われるだろうか。
(谷本)

内容についてのご意見やまちづくり活動のトピックなどありましたら、お気軽に『舞たうん』編集係までお寄せください。
〒79010003
松山市三番町四丁目十番地一

愛媛県三番町ビル二階
(財)えひめ地域政策研究センター

まちづくり活動部門
TEL089(932)7750
FAX089(932)7760
発行/平成二十年四月一日
(財)えひめ地域政策

研究センター
印刷/岡田印刷株式会社